

# 高木マコトさん



写真を始めたくっかけ  
高校時代に友人に誘われ、写真部へ入部したのがきっかけです。大学に進学後、撮影の基礎を学び、写真を本格的に始めました。平成18年に写真コンテストでグランプリ・準グランプリを受賞し、これを機にプロの写真家を志望するようになりました。

プロ写真家になって  
大学時代は、年に30点ほどにまとめたシリーズを二つぐ

らい作っていました。最近はその作品のボリュームが増えて、100点ほどのものを作っています。普段は一人で活動していますが、写真集を作るときは、出版社の方やデザイナーさんと一緒に作っています。

作品の特長は  
あらかじめ表現したいものは決めず、写真を撮った後、写真を加工する過程で、自分が感じたものを後から分析

し、それがコンセプトになっています。息が詰まったときは、写真を撮り続けます。難しくゴールが見えない感じですが、苦しいときも、頑張っているという感覚をイメージした作品で、「G

目標  
今、作っている作品を完成させたいです。また、ずっと写真を撮り続けることです。

メッセージ  
写真集「MID」「GRO UND」をぜひ、見てほしいと思います。写真集「MID」は、生まれてから死ぬまでの間の、生きているという感覚をイメージした作品で、「G

ROUND」は土をイメージし、さまざまなもの生まれ死んでいく世界を表現しました。写真は自由でもおもしろいし、撮影も楽しいです。この長野の風土が大好きです。



プロフィール 昭和60年生まれ。中野市在住。東京工芸大学芸術学部在学中の平成18年にキャノン写真新世紀グランプリ、EPSON Color ImagingContest準グランプリを受賞し、その後プロの道へ進む。平成21年には、写真界の芥川賞といわれる木村伊兵衛写真賞を受賞。型にとらわれない撮影と写真加工により独自の世界を見出す技法は、注目を集めている。



○読書と食育で豊かな心を  
昨年「国民読書年」でした。各小中学校でも朝読書の充実が努め、12名の読書指導員の皆さんの読み聞かせは大好評でした。(No.38号)

市立図書館は「知の宝庫」です。ぜひ今後もご利用ください。

子どもたちを取り巻く食卓には、孤食・偏食・少食などの問題があります。生きる力と深くかかわる「食育」は、家庭教育の柱の一つと考えています。(No.39号)



小さな土偶の前で動かない中学生(No.40号)、プラネタリウムで「HYABUSA」を観て、「きれいだったあ」と語る小学生がいました。どの顔も満足そうな笑顔です。

○一流との出会い  
一流の人は、子どもたちの個性を引き出す名人です。例えば、中央公民館の「ミュージカルを楽しもう」(No.43号)や、伝統文化の「お囃子や和太鼓を学ぶ子どもたち」(No.47号)は、日を追うごとに成長がみられました。

また、名人の指導を参観することは、子育てや授業づくりのヒントを学ぶ好機です。

身近な地域は、大切な学びの場です。家庭・地域・学校と一緒に教育問題を共有し、成長期の子どもたちに何ができるかを考える必要があります。



▼教育委員による学校訪問  
小中学校15校の学校訪問 6月~10月

社会でこそできる  
子どもの教育

○小さな探究者が育つ  
市立博物館は、子どもの豊かな感性と知的好奇心に応える学習を提供しています。

○きめ細かな教育環境  
教育懇話会では、就学指導や不登校対策などの要望がありました。本年度から指導主事と補助の担当者各1名を学校教育課に置き、各学校に配置した市独自の特別支援教育支援員や不登校対策指導員との連携を強化し、その成果が見えてきました。(No.37号)

今後も、信頼される質の高い教育環境づくりに、取り組んでいきます。

生きる力をはぐくむ

○総合的学習を支援  
総合的学習は、小学校3年生から中学校3年生が取り組めます。小学校5・6年生の小学校英語(No.41号)も、この時間に行われています。

この特色は、教科の枠を超えて総合的に追求する体験的な学習です。各学校の特色ある教育活動ですので、全ての学校に活動費を支給しています。

倭小学校の「倭じゅく」(No.42号)や豊田中学校の「わくわくタイム・イン豊田」(No.46号)は、この典型的な学習です。この学びを通して「生きる力」のもとになる、考える力や表現する力などを身につけた小中学生が育っています。

学校教育	64
・ 学習や生活	
・ 児童生徒数の減少	
・ 学校給食	
・ トイレ洋式化ほか	
家庭教育	37
・ 家庭生活	
・ 子育て支援	
社会教育	9
・ 社会とのかかわり	
・ 入館者数	
・ 社会人講師	
地域連携ほか	9
合計	119
(No.44号・No.45号)	1 3 5 9 28 11 5 23 25

○関心の高かった学校教育  
子どもを取り巻く教育環境が変化し、家庭・地域・学校はさまざまな教育問題に直面しています。そこで、教育の現状と課題を市民の皆さんと考える「市民教育懇話会」を4会場で開催し、190人の皆さんが参加されました。

教育懇話会では出された内容は、学校教育にかかわる質問や意見・要望が、全体の約5割でした。

また、関心の高い学力や学校の適正化、しつけの問題に関する発言が多く出され、今

市民教育懇話会の開催

教育を拓く知恵  
く平成22年度を振り返って

平成22年度の教育委員会だよりは、新しいテーマ「教育を拓く知恵」を掲げ、さまざまな教育活動を紹介してきました。そこで、一、充実した教育環境、二、生きる力をはぐくむ学校教育、三、学び触れ合う生涯学習のまちづくり、の3つの視点から今年度の主な教育活動を振り返ってみたいと思います。

## 教育委員会だより

No.48 編集／中野市教育委員会